日本統計研究所『統計研究参考資料』の発刊にあたって

今日，わが国において統計と統計制度をめぐって提起されている問題は数多い。国の統計資料体系全体の再編成が新ＳＮＡないしポスト新ＳＮＡとして論議にのぼり，「社会」統計への関心が高まっている。こういった方向を技術的に支えるものとして統計の作成，加工，貯蔵，検索の場でのコンピューターの利用も焦点の問題である。しかしこれらの動向はとくに地方統計の貧困に象徴されるように，社会経済の実情を正しくとらえるもの，また国民本位の統計作成，利用に充分資するものであろうか。そして国の統計体系の大がかりな統計再編の構想の一方で，統計作成の現場においては，被調査者への過重負担，プライバシー問題等でいわゆる「調査環境の悪化」が進み，新しい統計資料の獲得はもちろん，統計の精度の維持が以前にまして困難になってきている。こういった事態の中では，国民的な統計教育の内容と在り方も問われざるを得ないであろう。

活動を再開した日本統計研究所は，研究課題の重点の一つを，統計制度の再検討におき，1976年３月に『日本統計研究所研究所報No.１』を発刊した。『研究所報』は，統計制度を中心に，統計に関する主要な問題，さらには統計による日本経済・社会の現実分析などについて論文，ノートを中心に今後も定期的に発行していく予定である。と同時に，研究所では，これらの研究課題との関係で，とくに外国の統計事情，研究動向など注目すべき資料を収集・公表していくことを必要と考えた。ここに『日本統計研究所，統計研究参考資料』を発刊する所以である。

すでに『研究所報』発行の際に述べたとおり，日本統計研究所の活動は，法政大学の研究員のみではなく，広く法政大学内外の研究者と中央，地方の現場の統計家のご協力を得ておし進めていきたいと考えている。『所報No.１』発行の際のアンケートには多くのご協力を得，今後の活動の貴重な参考にさせていただいている。今後も各種のご意見，ご協力をいただければ幸いである。

1976年11月

法政大学日本統計研究所　喜　多　克　己